

らららん3号



2018. 5. 15

みんなの協力、ありがとう。

園庭の中央に金属の覆いがしてある溝があります。砂や土が流れ込み、たくさんの土砂が溜まっていました。これから梅雨にもなるし、流れをよくしようと5/9(水)に作業をすることにしました。

スキや平鍬を使って土を取り出していると、多くの子どもたちが近寄ってきました。「危ないよ」「さわったらいけないよ」注意するのも疲れるくらいでしたが、子どもたちから「ぼくたちもやりたい」という発言が出てきました。「うーん」と考えていると、担任の先生が「案外、子どもたちもやってくれますよ」と言ってくれました。「じゃあ、やってくれる？」と言うと、溝のまわりにたくさんの子がしゃがみ込み、土をのけてくれました。手に持っているのは砂遊び用の小さなシャベルとバケツです。バケツがいっぱいになると運搬用の一輪車に移します。一人の量は少なくとも人数が多くなると一輪車もすぐに重くなります。私は一旦スキで掘り出すのをやめ、一輪車を動かす作業をすることにしました。意外にもどんどん作業が進みます。きれいになった溝の半分以上は、好奇心のかたまりの子どもたちがやってくれました。十分に戦力になってくれました。

途中でミミズが出てきて興奮したことや、土をのけると底から水が浸み出てきた不思議も、飽きずに続けることができた理由の一つです。



改めて、子どもたちの力を見直しました。本当に助かりました。

「ありがとう。君たちのおかげで早くすんだ。うれしかったよ」というと「また、困っていたら手伝うから」と頼もしい言葉が返ってきました。作業が早く終わった以上に、子どもたちのさわやかさが、印象に残る一日でした。

コチョウランが咲いた!!

コチョウランが咲きました。園長室にあったものです。花が終わり、茎の中ほどを切りました。すると途中の節から新しい花芽が出てきて花が咲いたのです。

コチョウランは花の時期が長く美しいのですが、どうもうまく育てることができませんでした。花が終わって枯れてしまい処分することも多かったのです。しかし、昨年、成功しそうな雰囲気がありました。花が咲き終わって茎の中ほどを切ると、節から新しい芽が出て、つぼみまで育ったのです。しかし、このつぼみは開花することなくそのまま黄色に変色し枯れてしまいました。

今回は、きちんと開花しました。お世辞にも大きな花とは言えません。ずいぶん小さな花だなあとと思いますが、はじめて成功したのでうれしいです。

コチョウランは、台湾やフィリピン、インドネシアなどの東南アジアの熱帯地域が原産地のようです。年中温暖な地域なので、四季がはっきりしている日本ではコチョウランもストレスを感じていたと思います。

しかも、彼らは樹木に根を張り巡らせています。木から落ちないようにしているのが、根の役目で、どうも栄養を吸収する働きは根にはあまりないようです。私たち自身の固定概念が根で栄養を吸収するというイメージが強いので、水やりは根元へやってしまうのですが、葉へ霧吹きでやるほうがコチョウランにはいいようです。

もう少し具体的に原産地をイメージすると、山地の谷間で川の流れが近くにあり、湿度の高い状態で生育しているようです。ある程度の風もあるようです。木の枝や葉で直射日光が遮られ、木の幹に取り付いて生長します。熱帯では雨季と乾季があるので、雨季に大きくなります。また、乾季には休眠し開花するのです。ただ、乾季といいますが、スコールや夕方から夜にかけて霧が発生するので、それらで水分補給ができるのです。

1年間を通じて考えると、この日本では、育った環境を再現することは難しいと思います。特に、冬場の管理はなかなか大変になります。暖房を入れると、どうしても湿度が不足します。私はこまめに霧吹きをして乾燥させないように心掛けました。

コチョウランは木などに着生する蘭なので、本当は根が鉢に行儀よく入っていないのです。以前、コチョウランが栽培されている大きな温室に行ったとき、たくさんの根が鉢から飛び出しているのが驚いたことがありました。

他の植物と比べるとコチョウランは育ち方がかなり遅いと思います。根や花芽の伸び方や花の膨らみからが他の植物と全然違います。たぶん、原産地に比べると環境が違いすぎるせいもあると思います。

私も本当はよく知らないのですが、もともと原産地のコチョウランはどんな育ち方や環境にいるのかをイメージしてみます。少しでも、本来の生育環境に近づければ、もっと大きな花になったり、たくさんつけたりできるのではないかと考えます。少し前進しましたが、もっと工夫していきたいと思っています。

